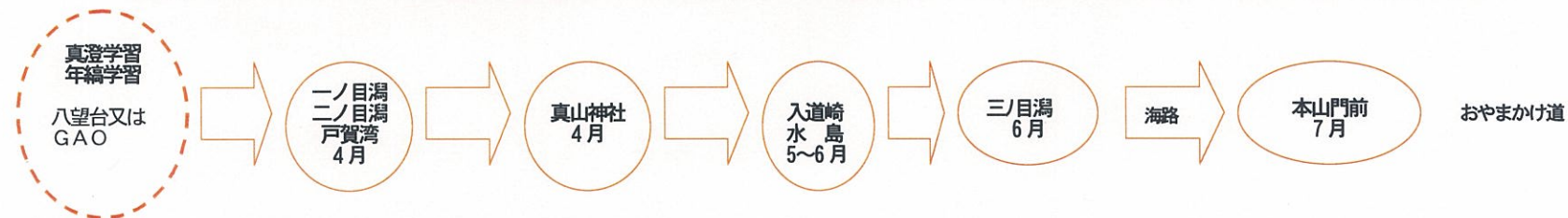


男鹿の環境史発見ルート(歴史・文化ルート例(菅江真澄の足跡<男鹿の春風・鈴風・島風>))

: 八望台 (又はGAO) を年縞・菅江真澄の学習拠点として、菅江真澄 (文化7年) の経路に合わせて進行し、主な歴史スポットで年縞との関係等を解説する経路の例



入道崎: 島崎 (入道崎) に着いた。そびえ立つ岩の上に重なるように漁師の家がつくられてあり、木々が残っていた。
 <男鹿の鈴風>

水島: 水島に渡ってみようと、朝早く、立木という山をひとめぐりし、背後という浜辺におりて、赤挾間というところから、えぐり舟とよぶ丸木の舟に、足を投げ出して乗った。
 <男鹿の鈴風>

三の女潟: 浜中の部落を過ぎて三の女潟の水が滲り出る涼しい細流のあるところに、いくつもの鳥居が立てて無動尊を祀っている。名をしら神という。しばらく行くと路傍の草のなかに、冷たい泉が清らかに湧いていた。
 <男鹿の鈴風>

海路: 加茂の与市という宿から丸木舟でこぎ出した。象の尻、南蛮色、穴の口、比多良岩、兜島などを眺めながらすすむと、白糸の滝が落ちていた。千畳敷、潮曳穴・・・さらに大産橋というのがある。
 <男鹿の島風>



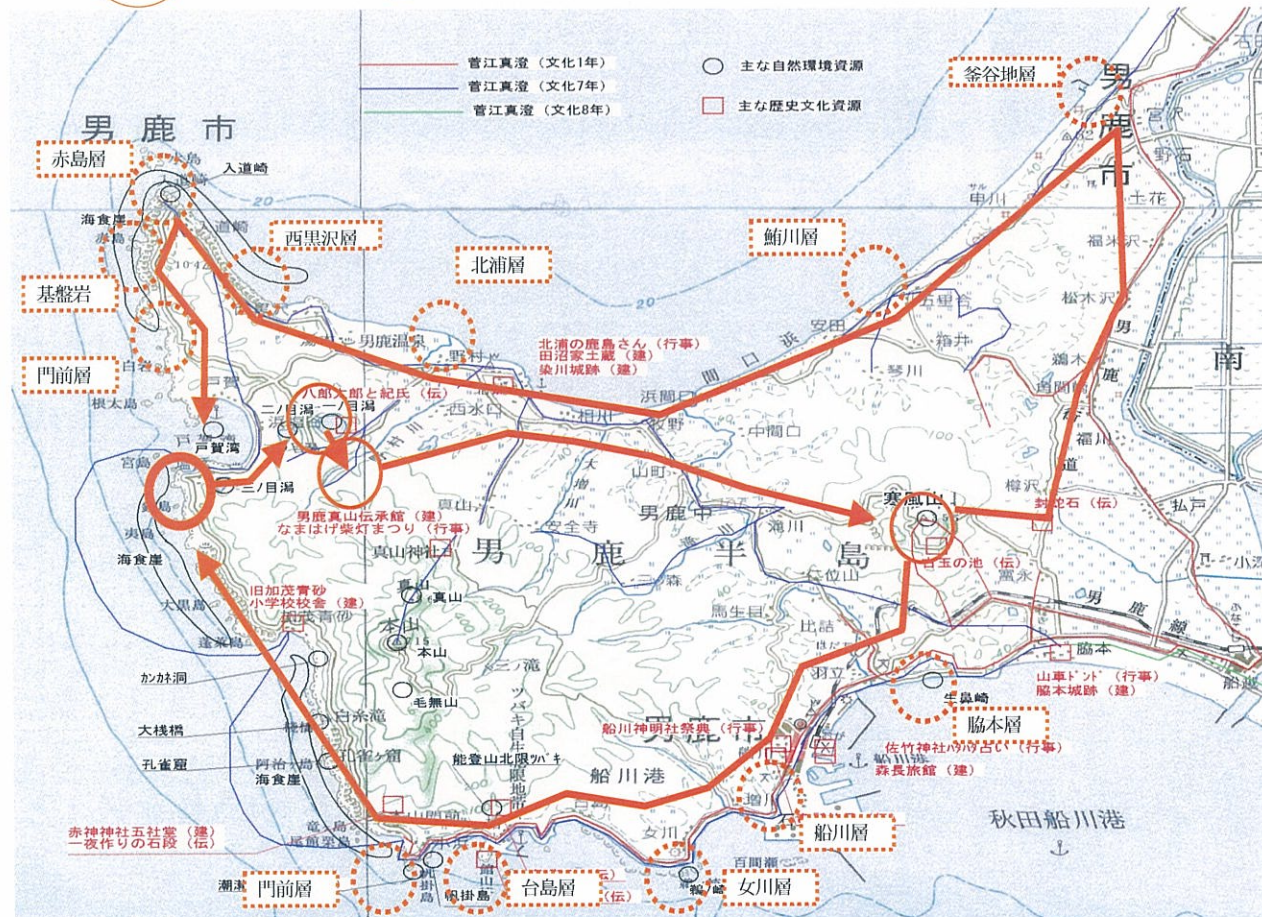
真山: ...山門は年を経て崩れてしまい、今はなく、その大きな二王は、薬師堂にしめ縄を八重に引き巡らして立っていた。

本山: ...雪がなおところどころに残っていて、風もたいそう寒い。これは本山の高い峰で、赤神の岳である。
 <男鹿の春風>

門前: 漕ぎ進んで門前の浜についた。...ふたたび本山日積寺永禪院にはいった。...五社には、向こう左手の始めに十善子、次は赤木明神、右手の始めに八王子、次に二の宮、中には漢武帝を阿迦神といひ、奥に薬師仏を秘め祀っている。
 <男鹿の島風>

おやまかけ道: 本宮と門前を結ぶ山道

男鹿の環境史発見ルート(自然・地質探訪ルート例) : 八望台 (又は GAO) を年縞の学習拠点 (年縞博物館) として、目潟の火山活動、年縞・それからわかる事柄などを理解し、さらに主に海岸沿いにある地質標識地を巡り、男鹿半島のなりたちを学習する。



男鹿の環境史発見ルート(自然・地質探訪ルート例)について

年縞博物館での学習	一ノ目潟、二ノ目潟、三ノ目潟	八望台	寒風山	さらに古い地質標識地を巡る
1. 年縞とは？ 実物を見る ↓ 縞の意味を知る 2. 年縞から分かる事柄は？ 時代の気温 植生 地震発生 火山活動 洪水 豪雪 など 3. 年縞から分かること、それが見られる場所は？ ↓ ●一ノ目潟（6～8 万年前に形成） 二ノ目潟（不明） 三ノ目潟（2～2.4 万年前に形成） 目潟と年縞のできかた 爆発 そして 静かな時の経過 縞の堆積 ●縄文前期の海進（6 千年前） 離島から陸繋島 ↓ 男鹿半島（半島を俯瞰しよう：八望台で） ●寒風山（2 万年前噴火） 三ノ目潟と同じ頃 年縞に痕跡が見られないのは？ ↓ 噴火のし方の違い ○教材、パンフレット、案内者（ガイド）	●一ノ目潟（6～8 万年前に形成） 二ノ目潟（不明） 三ノ目潟（2～2.4 万年前に形成） 目潟と年縞のできかた 爆発 そして 静かな時の経過 縞の堆積 これらを 実際に見る（て実感する） ○年縞（レプリカや写真）地形図を用いた案内標識、現地案内者（ガイド） 目潟の形成年代の表示 当時の気候、植生の解説など 年縞から得られた情報の説明 ↓ 年縞のどの部分がこれらの生成時期か	●縄文前期の海進（6 千年前） 離島から陸繋島 ↓ 男鹿半島 八望台で男鹿半島を俯瞰 ○年縞（レプリカや写真）地形図を用いた案内標識、現地案内者（ガイド） 縄文海進の要因 当時の気候、植生の解説 など 年縞から得られた情報の説明 ↓ 年縞のどの部分がこれらの生成時期か	●寒風山（2 万年前噴火） 三ノ目潟と同じ頃 年縞に痕跡が見られないのは？ ↓ 噴火のし方の違い （寒風山でも男鹿半島を俯瞰） ○年縞（レプリカや写真）を用いた案内標識、現地案内者（ガイド） 寒風山火山の構造・成因 当時の気候、植生の解説 など 年縞から得られた情報の説明 ↓ 年縞のどの部分がこれらの生成時期か	男鹿半島を形成している地質の探索 南のルート 脇本層：鮮新世後期地層標識地 ↓ 船川層：鮮新世前期地層標識地 ↓ 女川層：中新世後期地層標識地 ↓ 台島層：中新世中期地層標識地 ↓ 門前層：中新世前期地層標識地 北のルート 釜谷地層：更新世末期標識地 ↓ 鮪川層：更新世初期標識地（しびかわそう） ↓ 北浦層：鮮新世前期標識地 ↓ 西黒沢層：中新世中期標識地 ↓ 赤島層：中新世初期標識地 ↓ 基盤岩：先新第三紀標識地 ↓ 門前層：中新世初期標識地 ○案内標識、現地案内者（ガイド） 男鹿半島の地質断面図・平面図 地質系統図表を用いた説明

北秋田の環境史発見ルート(遺跡案内ルート例) : 八望台 (又はGAO) を年縞の学習拠点 (年縞博物館) として、北秋田の遺跡をとおして過去の人々の営みを理解し、実際にそれらを見て (体験して) 学ぶ。

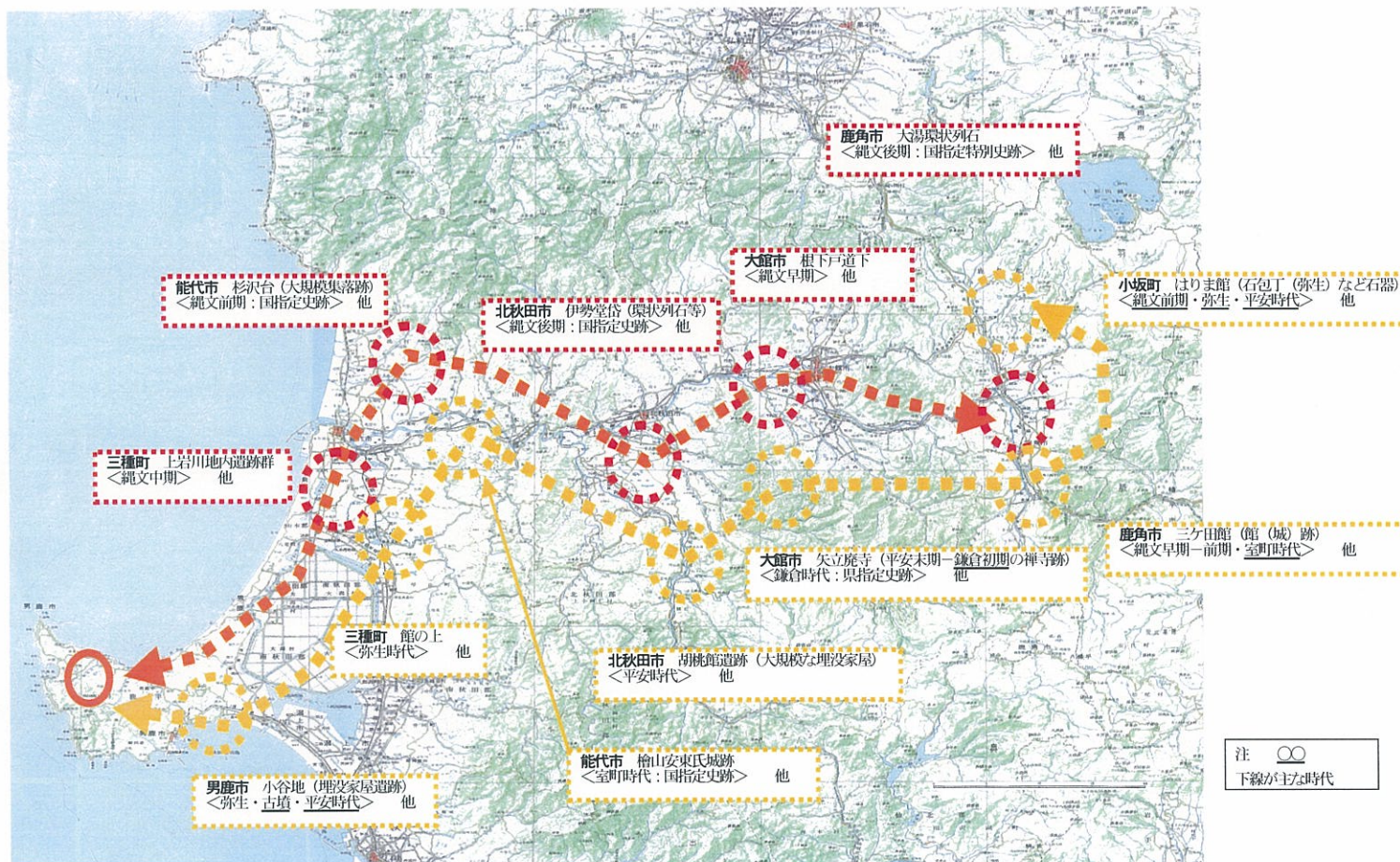
年縞博物館
での学習

八望台又は
GAO

北秋田の主要な遺跡分布地めぐりへ

旧石器時代～縄文時代遺跡ルート

弥生時代～江戸時代遺跡ルート



北秋田の環境史発見ルート(遺跡探訪ルート例)について

年縞博物館での学習	旧石器時代～縄文時代遺跡ルート	弥生時代～江戸時代遺跡ルート
1. 年縞とは？ 実物を見る ↓ 縞の意味を知る 2. 年縞から分かる事柄は？ 時代の気温 植生 地震発生 火山活動 洪水 豪雪 など 3. 年縞に現れる時代の営み(の跡)が見られる場所は？ ↓ ●主要な遺跡分布地 各時代の気候、植生等と人の営みを理解する(学習する) ○教材、パンフレット、案内者(ガイド)	家の下(三種町):旧石器時代(1万3千～3万年前) 三種町上岩川地内遺跡群(三種町):縄文時代中期(3千～5千年前) 萱刈沢貝塚(三種町):縄文時代中期(4千～5千年前) ↓ 縄手下(能代市):旧石器時代(1万3千～3万年前) 杉沢台(能代市):縄文時代前期(5千～6千年前) 柏子所貝塚(能代市):縄文時代後期晩期(2.3千～4千年前) ↓ 深渡(北秋田市):縄文時代中期(4千～5千年前) 森吉家ノ前A(北秋田市):縄文時代後期晩期(2.3千～4千年前) 伊勢堂岱(北秋田市):縄文時代後期(3千～4千年前) 橋場岱B(北秋田市):縄文時代後期晩期(2.3千～4千年前) 漆下(北秋田市):縄文時代後期晩期(2.3千～4千年前) 向様田A(北秋田市):縄文時代後期晩期(2.3千～4千年前) ↓ 池内(大館市):縄文時代前期(5千～6千年前) 根下戸道下(大館市):縄文時代早期(6千～8千年前) ↓ 天戸森(鹿角市):縄文時代中期(4千～5千年前) 高屋館跡(鹿角市):縄文時代後期(3千～4千年前) 大湯環状列石(鹿角市):縄文時代後期(3千～4千年前) ○年縞(レプリカや写真)地形図、遺跡見取り図を用いた案内標識、現地案内者(ガイド) その時代の気候、植生の解説など 年縞から得られた情報の説明 ↓ 年縞のどの部分がこれら遺跡の時代に相当し どのような環境であったか	横長根A(男鹿市):弥生時代 (西暦300年～2.3千年前) 小谷地(男鹿市):古墳時代(西暦300～700年) 脇本城跡(男鹿市):鎌倉・室町・安土桃山時代 脇本(男鹿市):安土桃山時代(西暦1573～1603年) ↓ 館の上(三種町):弥生時代(西暦300年～2.3千年前) 堂の下(三種町):鎌倉時代(西暦1192～1338年) ↓ 寒川(能代市):古墳時代(西暦300～700年) 檜山安東氏城跡(能代市)室町時代(西暦1338～1573年) 多賀谷居館跡(能代市):江戸時代(西暦1603～1867年) ↓ 胡桃館遺跡(北秋田市):平安時代(西暦794～1192年) ↓ 野崎(大館市):平安時代(西暦794～1192年) 坂下(大館市):平安時代(西暦794～1192年) 土飛山館跡(大館市):平安時代(西暦794～1192年) 矢立廃寺(大館市):鎌倉時代初期 ↓ 鹿角沢(鹿角市):平安時代(西暦794～1192年) 三ヶ田館(鹿角市):縄文早期～前期・室町時代 ↓ はりま館(小坂町):縄文前期・弥生・平安時代 ○年縞(レプリカや写真)地形図、遺跡見取り図を用いた案内標識、現地案内者(ガイド) その時代の気候、植生の解説など 年縞から得られた情報の説明 ↓ 年縞のどの部分がこれら遺跡の時代に相当し どのような環境であったか

北秋田の環境史発見ルート(北秋田の火山地探検ルート例) : 八望台(又はGAO)を年縞の学習拠点(年縞博物館)として、男鹿及び北秋田の火山地を巡り、その成
り立ちを実際に訪れて(体験して)学ぶ。

年縞博物館
での学習

八望台又は
GAO

北秋田の主要な火山地めぐりへ

地質時代を遡る(男鹿～田代岳)

